「医学洋書総合目録」の誕生 ——ユニオン・カタログ小史——

Birth of the “Union Catalog of Foreign Medical Books”

——Short History of the Union Catalog——

(1) 第10回総会(昭和11年)～第20回総会(昭和24年)
——「インフォメーション・ビューロー」と「Union Catalogue」——

堀 江 幸 司 山 根 京*
東京女子医科大学図書館

Horie, K., Yamane, K.: Birth of the “Union Catalog of Foreign Medical Books”—Short History of the Union Catalog—. *Igaku Toshokan* 30(4): 342-351, 1983.

The Japan Medical Library Association was established in 1927, and its major role is interlibrary loan activities. Arranging the “Union Catalog” of journals and books (holdings list), which is based on the interlibrary loan activities, is one of the basic tasks of the Association. As for the “Union Catalog” of foreign medical books, a total of eight volumes of the “Union Catalogue of Foreign Books in the Libraries of Japanese Medical Schools” were published from 1949 to 1956. This so-called “Union Catalog” has been edited by using a computer from 1977 up to the present. This study reports the history of the “Union Catalog.”

I. は じ め に

昭和57年3月、「医学洋書総合目録, 1980」(図1)が発行された。この編集担当館が東京女子医科大学図書館(以下当館という)であったわけだが、昭和55年の月刊版の編集に始まって累積版の作成まで、まさに「ユニオン・カタログ」に忙殺された2カ年であった。システム設計、館内・館外の担当分担・調整、マニュアルの作成、基本的資料の調査・整備等々、解決し即実行に移さなければならない問題が山積みであった。

このような状況のなかで、ワーク・シートを作成し、あるいはゲラ刷りを校正しながらいつも思い浮かべたのは、「医学洋書総合目録」の前身である「Union Catalogue of Foreign Books in the Libraries of Japanese Medical Schools」(図2)(以下「Union Catalogue」という)の序文にある次の一節であった。

「……これは近代日本医学界最大の文献書目であり、この種のものとしては世界でも希有なことで昭和十七

年刊行した医科大学々術雑誌目録と共に、医学文化史上の重要な史料となろう。……」

この一節には、日本医学図書館協会(当時、医科大学附属図書館協議会)を築いてきた人々の「Union Catalogue」に対する情熱と誇りが感じられるのである。

本稿では、この「医学洋書総合目録」誕生までの、いわゆる「ユニオン・カタログ」の歴史を概観する。

II. 第10回総会(昭和11年)～第20回総会(昭和24年)——「インフォメーション・ビューロー」と「Union Catalogue」——

「ユニオン・カタログ」の歴史は、今から47年前の昭和11年にまでさかのぼる。

昭和11年5月27日～29日の3日間、熊本医科大学で開催された第10回医科大学附属図書館協議会の席上、岡山(遠藤竹秋)から協議題として、「協議会として共同図書目録編纂の件」が提出された。これが、「ユニオン・カタログ」のはじまりである。この第10回総会では、後年「ユニオン・カタログ」で中心的役割を担うことになる慶応と東大が協議会からの勧誘に応じて加盟している。慶応からは草間良男館長が、東大から

* Koji HORIE, Kyo YAMANE: Tokyo Women's Medical College Library, 10 Kawada-cho, Ichigaya, Shinjuku-ku, Tokyo 162, Japan.
(昭和58年11月10日 受理)

図 1. 「医学洋書総合目録, 1980」

図 2. 「Union Catalogue of Foreign Books in the Libraries of Japanese Medical Schools」

は木村重三郎が出席した。

遠藤竹秋の提案理由は、「雑誌にありては、共同雑誌目録編纂せられ相互貸借の途講ぜられ居るも、単行書にありましては、未だ其時期に達せず、速かに共同図書目録の編纂されん事を希望す」というものであった。審議の中で、さらに遠藤竹秋は、「理由書に書いて居ります通り、単行本も雑誌同様に相互貸借が出来ればと思ひ、就ては共同雑誌目録に対し共同図書目録が出来なければならぬと思ひます、之が出来れば閲覧上並経済上甚だ便利であると思ひます」と述べている。これに対して、名大(清川陸男)は「其の第一着として慶応、大阪のやうに各大学の単行本の目録を作って交換して頂きたいと存じます」と述べたが、新潟(渡邊正亥)は、「目録交換が出来ないからこの種の問題を出されたと思ひます。此の問題の難点は第一に分類であり、第二に経費のことだと存じますが、先ず手始めに『インフォメーション・ビューロー』を作り、其處に一枚なり二枚なりの『カード』を送って集めて置きます。そして借りたい大学からその本の有無を『ビューロー』に問合せるとすることになると大変都合がいいと思ひます。」と述べている。

この「インフォメーション・ビューロー」の提唱者であった渡邊正亥は、後に(昭和 22 年)「Union Catalogue」(欧文の「医科大学総合医書目録」)の専任者となり、新潟県立図書館長を経て、昭和 38 年 4 月～40 年 8 月には順天堂大学の図書館長を務めた。現在順天が「医学洋書総合目録」(1981, 1982, 1983)の担当館として、その編集の中心的役割を担っていることを考え

ると興味深い。

この「インフォメーション・ビューロー」の構想が後年(昭和 39 年)の慶応における「医学文献センター」へとつながることになる。

協議題は、宿題として翌年に持ち越された。

第 11 回総会(新潟)(昭和 12 年)には、前回の総会で「共同図書目録の編纂」を提唱した岡山の遠藤竹秋は欠席であった。そして、同じく岡山の緒方益雄館長から「……本案は大事業たるのみならず本館に於いても目下蔵書整理中にして今遽かに云々すべき事に非ざれば本案を一応撤回致したし」との申し出があり、了承された。

新たに名大(清川陸男)が、協議題として「本会内にインフォメーション・ビューロー(Information Bureau)の如きものを設け加入館に於ける新購入図書を、何等かの形式にて月一回同局に送付報告するの件」を提出した。

この提案理由は、「本会総合図書目録編纂並に単行書相互貸借準備事業の第一歩として最新購入(昭和 12 年度)の分より之を實行、従前蔵書の分に対しては或る一定の協定期間中に各館蔵書名を報告することとせば総合目録編纂の下準備となる。加え目録上梓前既に希望図書の有無は同局に照会することに依り容易に知り得ることを得。本会事業の一つとして研究に裨益する廉不尠と認む」というものであった。

清川陸男は前回の総会では、各大学で作成した冊子体目録を交換すれば、当面は「共同図書目録」を編纂

する必要はないとの立場をとった。しかし、本総会では、遠藤竹秋、渡邊正亥の意見を入れて、「医科大学附属図書館協議会」の事業として「ユニオン・カタログ」を位置づけ、その基本構想をまとめあげたのである。

審議の結果、総合目録編集・単行図書相互貸借準備として、名大に「インフォメーション・ビューロー」が設置されることになった。

「インフォメーション・ビューロー」の提唱者は、新潟の渡邊正亥、実現者は名大の清川陸男であったといえる。清川陸男は、後に群馬の梅枝軍二(現当館)の推薦によって名誉顧問となった金沢の三宅次吉によると、「官立医科大学附属図書館協議会」の「産婆役」として活躍した協議会創立の中心人物の一人であった。第1回総会当時(昭和2年)清川陸男は新潟で渡邊正亥と共に宮路重嗣館長の下にいたが、昭和6年、林亥之助教授の招きで新潟を退官し、名大へ移っていたのである。

なお、この第11回総会には、戦後「Union Catalogue」の編纂に情熱を傾けた中山勇之助(新潟)が当番館の一員として参加している。

第12回総会(岡山)(昭和13年)において、阪大(藤木好三郎)から、協議題として「インフォメーション・ビューローへの報告に、ある制限を附しては如何」が提出された。

この提案理由は、「普通の図書は何處にもあり故に之を省略して次のものに限定しては如何。A. 特殊なるもの B. 金額例えば百円以上のもの」というものであった。この藤木好三郎の提案は、現在も問題となっている「収録範囲」を報告カード提出の簡略化の観点から、明確にしようとするものであった。藤木好三郎は次のように説明している。「新購入図書のインフォメーション・ビューローへの報告内容が余り複雑にきめられてあるから、なかなか面倒なので何處にも備付られてある普通書をビューローへの報告より省き、報告を提案の範囲に制限しては如何と云うにあり」。

この提案に対して「インフォメーション・ビューロー」の設置館であった名大(清川陸男)は、「普通書の報告を省くと云ふことは、『ビューロー』の機能上甚だ面白からぬことと思ひます」と、即座に反対した。また、渡邊正亥からは、「我々は所要の単行書が何處にあるかを知りたい。従って簡単でも凡ての図書を全部インフォメーション・ビューローに報告することがよい

と思ひます。尚ビューローへの報告は簡単な報告をなすことで満足したい」との意見が出された。東北(吉岡孝治郎)からは「インフォメーション・ビューローに全医大の資料が集まるから年報、又は報告を出して載ければ非常に結構ですが」との発言があった。

審議の結果、「インフォメーション・ビューロー」への報告は各大学が原則的に毎月一回報告することとし、「ビューロー」からは年4回報告書を発行することが決議された。しかし、この年4回の報告はその後一度も発行されなかったようである。

第13回総会(慶応)(昭和14年)において、岡山(遠藤竹秋)から協議題として、「現在名古屋帝国大学附属図書館内に設置してあるインフォメーション・ビューロー強化に就て」が提出された。

この提案理由は、「外国為替管理の強化に伴いインフォメーション・ビューローの利用が益々必要になってくる。各大学で協力の上一層その機能を發揮させる様にしたい。一定の期限を附けて各館から全蔵書の目録を名古屋へ報告することにしてはどうかと思ふ」というものであった。

この提案に対して、名大(清川陸男)は「ビューローへの御報告が無い館もあり、一方館員の不足から前回お引受した報告が出来なかった。各館の御援助を得て折角努力したい」と述べた。

遠藤竹秋の提案は、単行本相互貸借の重要性に立脚したものではあったが、名大一館の努力で、全国加盟館(13館)の昭和12年以前を含めた全蔵書をインフォメーション用に整理しておくことは、現実的に不可能なことであった。

審議の結果、「インフォメーション・ビューローの強化は結構なことであるが、過去へ遡ることは各館共困難の様であるから今後のものだけを報告すること」に落ち着いた。

第14回総会(千葉)(昭和15年)において、名大(清川陸男)から協議題として、「インフォメーション・ビューロー其後の状況報告」が提出された。その中で、「昭和14年度インフォメーション・ビューローへの報告は、リストに依る報告3館、カード報告4館、和書2,662冊、洋書1,334冊、利用申込は1回長崎よりあった」と報告されている。「インフォメーション・ビューロー」の利用は、記録によればこの長崎が一番早かつ

たことになる。この協議題とは別に、同じく名大(清川陸男)から「医科大学附属図書館図書目録委員会設置の件」が提出された。

この提案理由は、「……共同目録を編纂する事は最も大切な事であるから、『インフォメーション・ビューロー』としては一定の『カタログ・ルール』を作ってやって行きたい。それには是非委員会の設置が必要である。……」というものであった。現在の Working Group の前身であったといえる。

審議の結果、名大(清川陸男)、新潟(渡邊正亥)、千葉(北村清)の3館によって準備委員会が設置されることになった。

第15回総会(東大)(昭和18年)は、「ユニオン・カタログ」にとって歴史的な総会であった。

慶応(草間良男館長、高木武之助)からは、協議題として、「共同図書目録編纂の件」が提出され、一方、名大(大島武四郎)からは「インフォメーション・ビューローに関する件」が提出された。この慶応が提案した「共同図書目録」が、後年(昭和24年～昭和31年)「Union Catalogue」として結実するのである。

慶応の提案理由は、「戦時と外国書の入手不可能なるに伴ひ既存文献の徹底的利用を要請せられつつあり。此の際速かに共同図書目録を編纂して図書相互貸借の便に供するは刻下喫緊の要務なり」というものであった。

この慶応の提案に対して、岡山(関正次館長、遠藤竹秋)から具体的な作業方法が示された。それは、分野毎に担当館を決定して、その分野の「コピーリスト」を作成し、これを各大学に配付し所蔵しているものには○印を付け、他に所蔵しているものは書き加えて、送り返してもらうという方法であった。(資料1)

この計画は、当番館の館長であった東大の太田正雄教授(詩人、劇作家 木下杢太郎)の「熱誠なる支持」を得た。

その日(昭和18年10月20日)の午後一時から開催された実務者編纂委員会(全員)(京府・赤星軍次郎、京城・津崎孝道、新潟・渡邊正亥、阪大・藤木好三郎、金沢・三宅次吉、長崎・田鶴壽男、慶応・高木武之助、千葉・北村清、名大・大島武四郎、岡山・遠藤竹秋、東北・吉岡孝治郎、熊本・宮川喬次、東大・三輪福松)(写真参照)によって、各大学の分担が決定された。

資料1. 「Union Catalogue」の発端となった昭和18年第15回総会の議事録

四、共同図書目録編纂ノ件 (慶応)

(提案理由) 戦時と外国書の入手不可能ナルに伴ひ既存文献ノ徹底的利用ヲ要請セラレテ、アリ此ノ際速ニ共同圖書目録ヲ編纂シテ圖書相互貸借ノ便ニ供スルハ刻下喫緊ノ要務ナリト思考ス

慶 應 提案理由説明

議 長 現行本圖書目録編纂ニハ丁度良イ時期ジヤナイト思ヒマス、各館ニ編纂ノ義務ガアリマセウカ
(本館賛成ノ意見アリ)

議 長 デハ其ノ方法デアリマスガ何カ良イ御意見ヲ伺ヒタイト存ジマスガ

岡 山 岡山ニ於テハ私ガ所蔵ノ圖書目録ヲ編纂シテ居リマスノヲ参考デニ申シテマス
先ツ第一ニ分類ヲ、作偽、筋肉、血管等太體ニ分類シテカラ、著者名順ニ整理シテ、「コピーリスト」
(二〇部程作ツテ、之ヲ各圖書大ニ配付シ、蔵書ノモノニハ○印ヲ付テ、他ニ蔵書ナルモノハ書き加
ヘテ送り返シテ蔵書、ソレニ其イテ再ヒ整理ヲナシ完全ナ目録ヲ完成スルト云フ方法デス、現在大體出来
上リマシタガ對合ニ簡便ニ出来ルト思ヒマスノデ……

議 長 大體良イ御意見ダト思ヒマス、協力分擔シテ實行スルト案外簡單ニ出来ソウデスガ他ニ御意見ハ
金 澤 和書モ一掃ニ含ミマスガ

議 長 北ノ様ニシタイト存ジマス

デハ方法ハ岡山ノ探ルトシマシ共ノ分擔ノ範圍 實行方法ニ就テハ此ノ席上ヨリハ實務者ガ編纂委員
會ヲ開キマシテ協議スルコトニ取リ分擔方良イト思ヒマスガ

(一同賛成)

實務者編纂委員会(全員)

午後一時ヨリ開催シ、項目ヲ決定シ、擔當編リ當テ東大ニ一任サレタルニ依リ左配ノ通り決定ス

各館分擔編纂分科

岡 山 解剖學 精神科學(神經官能) 航空醫學

東 北 生理學 病理學

千 葉 生理學 眼科學

新 潟 生理學 法醫學

名 大 衛生學(國家醫學) 産婦人科學

熊 本 寄生病學(寄生蟲學、寄生植物、結核菌等) 小兒科學

大 阪 外科學(運動系統)

慶 應 内科學(診斷學、治療學、傳染病、新陳代謝病、體質病、血液、造血、内分泌、循環系統、消化系統、呼吸系統) 生物學

長 崎 耳鼻咽喉科學、理學的療法組

金 澤 整形外科學、醫學總紀

東 京 放射線科學、軍陸醫學

東 京 皮膚、泌尿器科學、齒科學

東 京 藥學、獸醫學

皇漢醫學(岡山、千葉、慶應、滿洲)

編纂實行方途 (協議會後東大ニテ立案)

第一期 基本調査(昭和十九年七月末マデ)

一、調査分擔範圍ヲ各大學相互ニ十五部程アリントシテ各館ニ配布ス

二、各館記入済ミモノヲ擔當館ニ集メ、一定カド記入後、編纂館(東大、慶應)確定(後附ス)

第二期 編纂(昭和十九年十月末)

一、アルファベット順ニ列ベ、分類ヲ統一シ、同時ニ著者名索引(著者名三行)ヲ作成スル(編纂館)

二、分類別ニ配分スル(編纂館)

三、印刷原稿ヲ作成スル(編纂館)

第三期

印刷校正ヲ以テ完了ス

以上

これに対して名大の提案理由は、「ビューロー事業経過報告並今後該事業促進に関する提案」と題する、議事録7ページを割く長文のものであった。「インフォメーション・ビューロー」への報告概数、報告形式等を詳しく報告した後、以下の3点を提案している。

1. 「第14回総会で決議されていた「医科大学附属図書館図書目録委員会・準備委員会」を開催し、報告すべき図書の種類、制限、並単位報告カードの規格及フォームの制定とか、該事業の中軸を為す處の共同作業の組織、機構等の検討もすること」
2. 「科学振興に関する国家的要望に応へ得る様な大掛りで、インフォメーションを重点として医学共同図書目録の刊行と米国議員図書館式印刷カードの頒布事業を兼行する施設。……之は無論医科大学協議会の事業としてではなく、今かりに文部省科学課(局?)あたりに提議して容れられれば文部省の事業としてでも兎も角それに要する一切の経費は文部省で賄ふて貰ふ、そして実際の事業は当医科大学協議会の手でやること」
3. 「敵性語排除現下の状況に鑑み此の際インフォメーション・ビューロー改め図書通報局とか、図書資源通報部とすること」

ここで疑問となるのは、慶応の「共同図書目録」と名大の「インフォメーション・ビューロー」の関係である。「インフォメーション・ビューロー」も「総合図書目録編纂の下準備」として設置されたものであるから、データ(報告カード)は十分に収集されていたはずである。しかし、議事録からは、この「報告カード」が今回慶応から提案された「共同図書目録」に活用されていないように思われた。そこで、中里龍瑛名誉顧問にお目にかかって伺ってみた。それによると、報告カードも「共同図書目録」に活用されたとのことであった。

また、渡邊正玄先生のお話によると、岡山から提案された「コピーリスト」の案はペーパープランに終わったそうである。

「共同図書目録」は短期間のうちに冊子体目録として作成することになり、また「インフォメーション・ビューロー」はインフォメーション・サービス(所在問合せ業務)をその機能として、新しい情報を追加できるということで、双方とも協議会の事業として継続されることになったのである。

なお、名大の清川陸男は前回の第14回総会を最後に

図書館界から引退していたが、この第15回総会において、協議会の創設当時の永年の尽力に対して表彰されることになった。

戦後第1回の総会は、昭和21年6月28日(金)～29日(土)の2日間、変則的に実務者(司書)だけで、京府で行われた。この第16回総会(京府)では、東大(三輪福松・中里龍瑛)に中央事務局を置くことが決定されている。

協議題として、東大(三輪福松・中里龍瑛)、東北(吉岡孝治郎)から「共同目録作業促進の件」が提出され、以下のことが決議された。

- i) 編集方法が各館区々になることを避けるために、編集委員を設けて統一することとし、新潟〔中山勇之助〕・金沢〔三宅次吉〕・東北〔吉岡孝治郎〕が委員となること。
 - ii) 出版に要する費用の計算並びに文部省に対する費用の支出方の交渉を、中央委員特に東大〔三輪福松・中里龍瑛〕が担当すること。
 - iii) 長崎の原稿が焼失したので、各館は更にこれを作成して送ること。
- (()) 内筆者補記

戦後1ヵ年もたたぬ間に実務者のみによる総会が開催されたことには、実務者の協議会存続にける並々な情熱を感じることができる。

第17回総会(金沢)(昭和21年10月15日(火)～16日(水))において、協議題として、東大(三輪福松)からは「共同図書目録追加編纂並其の技術上方法の件」が提出され、また、中央事務局からは、「共同図書目録編纂促進の件に付其の後の経過報告」が提出された。中央事務局として、はじめて総会に提出された協議題はこの「ユニオン・カタログ」に関するものであった。

この総会には、文部省から当時科学教育調査課長であった馬場重徳(現図書館短期大学名誉教授)が出席した。馬場重徳の力添えて共同図書目録の刊行が学術研究会議の内に設置された「科学文献調査特別委員会」の事業の一部として採択され、その編纂が協議会に委嘱されたのである。この時、原稿作成費(調査費)として、65,000円が文部省から支出されている。学術研究

会議から出席した福田信夫は、この「調査費」の使途について、「人件費あるいは通信費等に自由に使ってかまわないが、共同図書目録は協議会に加盟していなかった京大、九大、北大の3館を含めたものにするように」指示している。65,000 円のうち、12,500 円が中央事務費とされ、3,500 円が各館に分配された。

馬場重徳は当時の様子を「医学図書館」の中で次のように語っている。少し長いが引用してみる。

「昭和 22 年頃学術研究会議学術文献調査研究特別委員会でお世話になって居た東大の土井司書官の御紹介で東大の医学中央図書室の三輪福松と言う方が私を尋ねて来られ、医学図書の総合目録の草稿が完全に出て来て居るが出版費がない。出版をどうかしてくれと言う御話であった。この言葉をすっかり信用して出版出来る様に努力して見通しが立った時に、未だ不完全で記入の統一、編成の再検が必要だからその補助金をくれと三輪さんが又来られた。言葉のあやと言いつつ面白い人も居るものだと思って、特別委員会に計り医学部の福田先生に特に説明を願って、この編纂の事業を特別委員会の事業にして頂いたのである。

図書館にはこう言う人も居るとは面白い所だと思ったこと、日本の戦後残った貴重な文献を総合目録に編成し、精神的に再分配して万人の活発な利用に供することは極度に大切なことで、その觀念に於いて、乏しい予算の中から相当額がこれに提供されたのである。この医学総合目録が印刷されて世の中に出る様になったのは、多くの人の善意と熱意にささえられて数年後からであった。この問題では吉岡さん、中里さん、中山さん(新潟)の熱心な推進があった」¹⁾。

なお、この第 17 回総会で、新潟の渡邊正亥と慶応の高木武之助の退職にあたって感謝状が送られることになった。また、新潟からは赤崎兼義館長が出席した。

第 18 回総会(東北)(昭和 22 年)において、名大(大島武四郎)から協議題として、「インフォメーション・ビューローは現在自然消滅の形ですが、今後如何に處置しますか」が提出された。審議の結果、第 15 回総会での決定通り、「名大に迷惑をかけないように原稿を整頓の上、昭和 21 年 4 月以降のものを報告する」ことが決議された。昭和 21 年 4 月以降とされたのは、「Union Catalogue」が、昭和 21 年 3 月末までのものを原稿としたためである。

また、慶応(飯沼守磨)からは、協議題として「共同

目録出版促進の件」が提出された。この協議題提出には、「共同図書目録」の提唱者としての慶応の並々ならぬ熱意が感じとれるのである。

この提案理由は、「共同図書目録の印刷原稿を整備するために新潟の渡邊正亥を専任者とし、手当を月 5 千円位とし、各館から分担金として 1 ヶ月 400 円集める」というものであった。

審議の結果、1～2 の大学で校閲することは困難であるとして、新潟を退職していた渡邊正亥に「Union Catalogue」(医科大学総合医書目録)の編集を専任として依頼することになり、また他方、文部省にも予算方を懇請することになった。

なお、岡山の遠藤竹秋は前回第 17 回総会を最後に退職していたが、この第 18 回総会において同氏に感謝状および記念品が贈呈されることになった。

また、この総会には九大から山川幸雄(現名誉顧問)が初参加している。山川幸雄は当時の模様を次のように語っている。

「……終戦後 2 年目のことであり、物資、食糧ともに窮乏した時代であった。九州から東北までの出張に食糧(白米一升、南瓜、馬鈴薯、玉葱)持参であった。ところで当番館(吉岡事務主任、小野寺氏)の方では出席者のために特に白米一升を紙袋にいれて希望者にわけける用意がされていたのである。そのきめ細かい配慮に恐縮せざるを得なかった。九州のやみ米価より東北のそれの方が安価であったからである」。²⁾

このように、昭和 22 年は、名大の「インフォメーション・ビューロー」が再開され、また「Union Catalogue」の編集が動き出した意義深い年であったといえる。

第 19 回総会(阪大)(昭和 23 年)において、新潟(中山勇之助)から協議題として、「医科大学総合目録印刷促進の件」が提出された。馬場重徳の意向を聴取した後、以下のように決議された。

1. 協議会が適当なる業者を選び再交渉すること。
2. 各館は確実なる部数を 11 月中に中央事務局に報告すること。
3. 新潟、東京、慶応、大阪を業者選定の委員とすること。
4. 成るべく年度末にかからぬ様にすること。

渡邊正亥、中山勇之助、吉岡孝治郎、中里龍瑛らの努力で昭和 23 年には原稿の整理を終え、第 1 巻の印刷準備に取りかかることになったのである。

この第19回総会から慶応の佐野輝夫が登場している。

第20回総会(名大)(昭和24年)には、「ユニオン・カタログ」関係の協議題は提出されていない。これは、学制改革に伴う協議会の存続問題に審議が集中したためであった。従来、協議会に私立は慶応しか加盟していなかったが、これを機会に私立も拒むことなく「協議会加盟基準」に従って加盟を認めることになった。

「医科大学附属図書館協議会」は「日本医学図書館協議会」として再出発することになったのである。

協議会としては提出されなかったが、中山勇之助は「医科大学総合医書目録について」以下のように報告している。

1. 第1号が出来上った。定価500円(送料を含む)

当初の予定価格一冊450円より高くなったが印刷費の値上げ等に依りいたし方ない。

2. 完成を急ぐために2印刷所に依頼する件。

出来上る物に多少の不満はあるが予算等の関係上今年度内には是非仕上げたいから2印刷所に依頼する。

3. 第3号以下の定価が一冊約600円程度になる。各館協力して広告を集める。

文部省に援助を依頼する。

「Union Catalogue」の第1巻が出版されたのを機会に、これを継続して刊行する費用を確保するために、当時の高瀬文部大臣に北村包彦教授、草間良男教授、滝澤延次郎教授らの連名で建議書が提出されることになった。(資料2)その結果、加盟館の各館長を研究員として申請し、科学研究費として出してもらうことに

資料2. 高瀬文部大臣への建議書(写)

◎ 医科大学総合医書目録整備促進方に關する建議書(寫)

竊うに我が邦の医学文献の現状よりして、現存医学文献の十分を利用を計ると共に、其の利用を促進する爲に必要なる後を整理整備するべき事、是れ固く我々の責務であると思存します。

然して先般我が邦を動けた自然科學、人文科學、農林、畜産、工業、衛生、保健、医療、紅十字の整備の必要も、應に同様にユニオン・カタログを整備する事の不可缺なる事を、理直に暗示されました。一方我が邦の医学図書館は既に此の類に多次の關心を寄せ、圖書の充分なる利用に就て種々研究を遂げ、その準備の便助を得て昭和廿一年三月現在を以て一應医学雑誌、医学圖書に關する綜合医書目録の準備を完了致し、此れを印刷刊行し、廣く世の利用に供すべき段階に立至りました。

更に其の後の現状の好転は、條々外國医学書刊行協会の寄附、交換、其他の道に依つて多數入手し得られる事となり、昭和廿一年四月以降の医学文献は既に統一ユニオン・カタログの整備、編纂、印刷の問題が緊要の問題となり、更に其の後の現状の好転は、條々外國医学書刊行協会の寄附、交換、其他の道に依つて多數入手し得られる事となりました。更に今後の学制改革により、新制医科大学の新設に伴ひ、本事業の緊急性が著るしく、其の迅速な実現の成否は、直接医学研究活動に左右するものも、過言でない状態となりました。

他方、於て反響するに、日本學術會議は本問題の重要性に鑑み、鑑賞の進化を鑑み、大抵及び文部大臣に建議されたと言ふ事です。

我が協議会も日本學術會議の右の建議に全面的に同意し得るものであり、まして目下立案中の中核医書目録編纂の事業の成否は一に經費の確保如何にかゝつて居ります。

關係者一同は本ユニオン・カタログの完成の一日も早い事を念願し、折角調製整備に努力しつゝ、ある次第であります。

統ては文部当局に於ては、ユニオン・カタログの重要性を認められ、其等の計画の実施及び実現に就し、全幅の支持を與えられん事を、其の實現に必要な別紙の經費に就き適切な措置を講ぜられる事を、當協議会の決議に基き、茲に建議致します。

なったのである。昭和 25 年度には約 3 ヶ年の継続費の当年度分として 75 万円が割当てられている。

昭和 18 年第 15 回総会に端を発した「Union Catalogue」は、編集および財政面で軌道に乗ることになるのである。

かくして、「Union Catalogue」は実務者(司書)、館長そして文部省の三者の協力の上にでき上がったといえる。とくに財政面その他で理解を示した文部省の馬場重徳の

尽力なしには「Union Catalogue」は実現できなかったといっても過言ではない。

昭和 24 年 9 月の第 1 巻から昭和 31 年 3 月の第 4 巻まで実に 7 年の歳月をかけて「Union Catalogue of Foreign Books in the Libraries of Japanese Medical Schools」全 8 巻は完成したのである。(表 1)

(次号へつづく)

表 1. 「Union Catalogue」の発行順序

第 1 巻 A—Br	昭和 24 年 9 月 5 日	第 7 巻 S	昭和 27 年 6 月 20 日
第 5 巻 M—O	昭和 25 年 3 月 10 日	第 8 巻 T—Z	昭和 28 年 3 月 25 日
第 2 巻 Br—Fo	昭和 25 年 9 月 25 日	第 3 巻 Fo—Ho	昭和 29 年 10 月 10 日
第 6 巻 P—R	昭和 26 年 9 月 25 日	第 4 巻 Ho—L	昭和 31 年 3 月 20 日

引 用 文 献

- 1) 馬場重徳：医学図書館活動に関する断草。医学図書館，3 (1・2)：137—140，1956。
- 2) 山川幸雄：日本医学図書館協会のあゆみ(1)。医学図書館，23 (1)：9—17，1976。

官立医科大学附属図書館協議会・医科大学附属図書館協議会。総会議事録第 1 回—第 20 回，1927—1949。(議事録からの引用中，原文はカタカナのところはひらがなとした。また，字体は原則として新字を用いたが，正字で表記したところもある)。

参 考 文 献

- 1) 三宅次吉：吾が協会生い立ちの憶い出。医学図書館，4 (4)：235，1957。
- 2) 長尾公司：日本医学図書館協会のあゆみ(2)——東北地区医学図書館の活動：人とその背景——。医学図書館，23 (2)：55—59，1976。
- 3) 中里龍瑛：清川陸男さんの思出。医学図書館，2 (5・6)：116，1955。
- 4) 中里龍瑛：白鷗漁史回想録。医学図書館，23 (2)：61—68，1976。
- 5) 中里龍瑛：日本医学図書館協会前向き推進の再認識(1)。医学図書館，27 (2)：65—72，1980。

- 6) 中里龍瑛：日本医学図書館協会前向き推進の再認識(2)。医学図書館，27 (3)：160—170，1970。
- 7) 渡邊正玄：医科時代の思い出。医学図書館，4 (5)：255—257，1957。
- 8) 吉岡孝治郎：清川陸男さんの思い出。医学図書館，2 (5・6)：116，1955。
- 9) 吉岡孝治郎：医科大学附属図書館協議会の思い出。医学図書館，4 (4)：236，1957。

謝 辞

写真は、当館の梅枝軍二氏から拝受した。梅枝軍二氏の添え書きには次のように記してある。「この写真は、前橋医専(前橋医大)に勤めて間もない昭和 22—23 年頃、当時校長(学長)だった西成甫先生から『この写真は君が持っていた方が……』といってもらったもの(梅枝)」

この写真の御名前の確認には、梅枝軍二氏をはじめ、渡邊正玄氏および中里龍瑛氏、山川幸雄氏、長尾公司氏の各名誉顧問のお手を煩わせた。

また、第 1 回からの総会議事録は中央事務局および東京慈恵会医科大学附属図書館から拝借した。順天堂大学図書館の横田隆之氏にもお世話になった。それぞれの方々のご厚意に心より御礼申し上げます。

写真. 第15回医科大学附属図書館協議会(東大, 昭和18年)

付録. ユニオン・カタログ略年表(1)

	総会回	当番館	協 議 題	決議内容・人物・その他
昭和11年	第10回	熊本	「協議会として共同図書目録編纂の件」(岡山)	岡山の遠藤竹秋「ユニオン・カタログ」を提唱 新潟の渡邊正亥「インフォメーション・ビューロー」を提唱 慶応・東大加盟、慶応より草間良男館長参加
昭和12年	第11回	新潟	「本会内にインフォメーション・ビューロー(Information Bureau)の如きものを設け加入館に於ける新購入図書を、何等かの形式にて、月一回同局に送附報告するの件」(名大)	「インフォメーション・ビューロー」を名大に設置。 清川陸男(名大、前新潟)
昭和13年	第12回	岡山	「インフォメーション・ビューローへの報告に、ある制限を附しては如何」(阪大)	「インフォメーション・ビューロー」への報告は各大学が原則的に毎月一回報告することとし、『ビューロー』からは年4回報告書を発行する」ことを決議 藤本好三郎(阪大)
昭和14年	第13回	慶応	「現在名古屋帝国大学附属図書館内に設置してある『インフォメーション・ビューロー』強化に就て」(岡山)	遠藤竹秋(岡山)
昭和15年	第14回	千葉	「インフォメーション・ビューロー其後の状況報告」(名大) 「医科大学附属図書館図書目録委員会設置の件」(名大)	「医科大学附属図書館図書目録委員会」準備委員会の設置。 委員は清川陸男(名大)・渡邊正亥(新潟)・北村清(千葉)
昭和18年	第15回	東大	「共同図書目録編纂の件」(慶応) 「インフォメーション・ビューローに関する件」(名大)	草間良男・高木武之助(慶応)、太田正雄(木下李太郎)東大当番館長 大島武四郎(名大)、西成甫(東大教授)医学部長代理 名大「インフォメーション・ビューロー」と慶応提唱による「医科大学総合医書目録」の2つの流れができる。
昭和21年 (6月)	第16回	京府	「共同目録作業促進の件」(東大・東北)	戦後初の司書だけによる総会。東大に中央事務局を設置。 三輪福松・中里龍瑛(東大)、吉岡孝治郎(東北)
昭和21年 (10月)	第17回	金沢	「共同図書目録追加編纂並其の技術上方法の件」(東大) 「共同図書目録編纂促進の件に付其の後の経過報告」(中央事務局)	三輪福松(東大)、文部省より馬場重徳参加、新潟より赤崎兼義館長参加
昭和22年	第18回	東北	「インフォメーション・ビューローは現在自然消滅の形ですが、今後如何に処置しますか」(名大) 「共同目録出版促進の件」(慶応) 「和書総合目録の計画に就いて」(熊本)	大島武四郎(名大) 飯沼守麿(慶応) 宮川喬次(熊本) 名大の「インフォメーション・ビューロー」再開。 「Union Catalogue」編集を渡邊正亥(前新潟)に依頼(専任)
昭和23年	第19回	阪大	「医科大学総合目録印刷促進の件」(新潟)	佐野輝夫(慶応) 〔「医科大学総合図書館目録編纂順末報告」(新潟)〕報告事項 〔「医科大学総合図書館目録費の件」(東大)〕
昭和24年	第20回	名大	「総合目録出版援助を依頼のため文部大臣に送る決議文について」(実務者打合せ会議題)	「Union Catalogue of Foreign Books in the Libraries of Japanese Medical Schools」(医科大学総合医書目録)第1巻刊行(昭和24年9月) 「医科大学総合医書目録について」(新潟)一報告事項 「医科大学附属図書館協議会」より「日本医学図書館協議会」と改称